

# Jomon Shiba



NPO法人  JSRC  
縄文柴犬研究センター

48 号

2020年12月10日

NPO法人  JSRC  
 縄文柴犬研究センター

もくじ・・・1

キューと小豆島旅行記 金沢 Kさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

瀬戸の黒狼（ソックスくん） 広島県江田島市 Mさん・・・・・・・・・・・・・・4

木霊の伽羅（サンちゃん） 富山県 Nさん・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

お便りコーナー・・7

センター宣伝カー完成報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・9

HPリニューアル報告・・11

名簿公開についての補足・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・12

**特定非営利活動法人 縄文柴犬研究センター**

郵便振替口座 : 02280-2-106951

会事務所 : 〒 737-2214 広島県江田島市大柿町深江 478-1 ☎ 080-4551-9965  
 FAX 0823-57-2692

<http://www.jomonshiba.com/> Email: [encounter\\_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp](mailto:encounter_shiba@jomon-shiba.sakura.ne.jp)

## キューとの小豆島旅行記

金沢 Kさん

会誌届きました。今回の10周年記念号は読み応えがあり、重要な資料にもなります。ありがとうございました。嬉しくなり久しぶりですが、投稿文を書いてみました。

少し前のことですが、今年の1月に山歩き仲間の婦人二人を車に乗せて、小豆島に行ってきました。その一人の方の姉が島に住んでいて、そこを訪ねる旅で、キューを連れて行きました。その姉さんの住んでいるところは海岸べりで、すぐ裏は山になっており、その裏山全体が持ち物だという。その方は独身の元高校教師で退職後ネットで検索して家付きのこの土地を見つけて買い石川から移り住んだという。今はこの島で自然植物の観察と調査を一人でやり、植生図誌を作成中だという。私は植物に興味があり、彼女が裏山が荒れ放題なので、自然管理の歩道を作りたいというので、それなら何かお手伝いができるかもしれないと話が合い、この旅が実現したのでした。

数年ぶりのフェリーで穏やかな瀬戸内海を渡って島に着いた。私は小豆島は初めてで、オリーブと醤油の案内があちこちに見られ、高校生の時に読んで感動した壺井栄の「二十四の瞳」の舞台であり、今も映画の撮影場所が観光地になっている。島の道路はカーブやきつい勾配が多いがきれいに舗装され、どこからも海岸線や山が見渡せ、景色がいい。断崖の入り組んだ岬に小さな船が繋がれた漁港と、裏に山が迫った狭い土地にポツンポツンと集落が断続する。特産のオリーブの実チョコなど土産用の菓子になり、私などオリーブオイルはほとんど使っていないので知らなかったが、パンに塗って食べたり、肌化粧品用に香水のような小瓶に詰められて売られており、驚いた。ミカンも栽培されており、名前は忘れたが内皮ごと食べられる柑橘が道の駅で売られていたので食べてみたら、香りがよく、おいしいものでした。海は穏やかで、低く響く汽笛を鳴らして船が通るたびに波が来る感じで、向かいには四国の山が観え、夕日がそこに沈むのを見ていると何とも静かで落ち着いた気分になり、座ったままいつでもじっとしておられるのでした。日本海の暗い荒波しか知らない私には、この海岸風景は印象深いものでした。キューは海岸の砂浜を自由に駆け抜け大喜びで、私が呼ぶとすぐに駆け寄ってきます。

ところで、これを書いたのはこんなことがあったからです。キューと散歩していると道の端が妙に荒らされて、土が盛り上がりたり削られたりしているのです。どうみても人の仕事には見えないので、お姉さんに聞いてみるとイノシシの仕業だと言います。以前はこの島に居なかったのに、ここ数年、イノシシとニホンジカが急に増え（海を渡ってきたという）、島の畑地も山林も荒らされ、捕って届け出たらわずかのお金が出るらしいが、猟をする人が少なく、まったく追いつかないのだという。キューとの散歩ではイノシシに会わなかったが、キューは駆け回りながら匂いを嗅ぎまわり、尿をあちらこちらにしていた。観光地小豆島の自然と島の人々の暮らしが、イノシシとシカで破壊されているのは放置できないと強く思ったのでした。

私はこれなら縄文柴犬を飼えばすぐに役立つと思ったのです。私の飼っている縄文柴犬のキュー（救）は甘え娘で9歳半になりますが、今でも山や野原で放すと野獣の匂いを嗅ぎとり、動くものを見つけると俊敏に追いかけてきます。カモシカに会うたびに追いかけて、マムシやヤマカガシの毒蛇にも怖気ず対峙し、土に潜ったネズミを掘り出して吠え、セミやバッタやトンボを捕まえて食べます。硬いクルミの殻を噛み砕きます。私は山歩きにはキューを連れて行きます。最近私の近隣の山にもクマが多く出ます。キューはクマ避けよろしく私の先を行き、藪の中でも平気です。私の姿が見えなくなると戻ってきて、私の姿を確認するとまた先になって駆けだします。私はキューと山で行動している時に、クマに出会ったことは一度もありません。この俊敏性と野獣に物怖じせず、主人に忠実な縄文柴犬の性質は、イノシシなど野獣の畑地荒らしに対する防御策として確実に有効だと考えます。



金沢のDさんの家の近くではイノシシが多く、愛犬のモン（雌）ちゃんがそれを追いかけて、ご近所の農家の方からも信頼を得ているほどです。Nさん宅の記事でも、縄文柴犬を獣害対策に有効に使われていることがよくわかります。

縄文柴犬のこうした良い性質を多くの人に広め、特質を活用したいろんな活用法で飼ってもらいたいものだと思います。小豆島に縄文柴犬を飼う人をぜひ生み出したいです。私もこうした立場でJSRCの活動に参加をしていきたいと思っています。



縄文柴犬研究報告・会誌表紙写真・お便りなど随時募集しております

送り先：〒739-2205 広島県東広島市河内町戸野 599

Mail:nagirarin@gmail.com

## 木霊の伽羅（サン）

富山県 Nさん

サンが我が家にやってきて一か月が過ぎました。ここは富山県と石川県との県境の南砺市の中山間地の小さな集落です。

結婚したとき自然農で田畑ができる場所を探し、14年前に移住してきました。住み始めは6軒だけの限界集落でしたが、さらに3軒が空き家になり、田んぼの半分は持ち主の高齢化で耕作放棄地になっています。

10年ほど前からシカやサルが入り込み、それまで山奥にいたイノシシが田畑を荒らしまわるようになりました。とうとう生活して通学路や田んぼの間の道で、朝晩イノシシやクマに出くわすようになり、村に住み続けるため必要に駆られて、この夏に罾の免許をとりました。

猟師さんから罾の見回りで時には獣がとびかかってくるという話を聞き、犬がいてくれたら心強いし集落内にも動物が出にくくなるのではないかと考えていました。

ちょうどその折に、石川県の会員の方から縄文柴犬の話の初めて聞き、広島から生後三か月になるサンが我が家に来てくれることになりました。

サンの第一印象は、人懐っこくて物分かりが早い、そして自尊心が強いということでした。

来たその日から、家族のだれもを受け入れていて、初めて来た家のルールについて私たちが言うことをわかってくれました。



しかし、人の食事時間に部屋の外にゲージを移したり、初めて外につないだりしたときは、だいぶ長く吠え続けたので、自分をしっかり主張する自尊心の強さを持った子だと感じました。きっとたくさんの人に可愛がられ、大切にされてきたのでしょう。最初はこの子の良さを折り取らずにうちで人と暮らすことを教える難しさに戸惑いましたが、これは小さな子どもを育てるのとおんなじだと思えてからは、特に悩むこともなく楽しくなってきました。

我が家には2年前に来た猫が2匹（その間に生まれた子たちはサンの来る前にもらわれていきました）、ヤギが三頭います。サンは以前の環境のおかげでしょうか、猫に吠えず、ヤギの餌やりにも同行します。そして中学1年の息子と小学2年の娘がいるのですが、サンは特に娘と気が合うようです。近くに子どものいない僻地なので、小さなころから娘はよくヤギや猫たちと時間を過ごしていました。





初めてサンがうちに来た晩は、ゲージに入れると寂しがつて鳴くので、娘は「じゃあ、みいちゃんが入ってあげるわ」と一緒にゲージに入り、腕枕でトントンされたサンはすぐにくろんとお腹を上に向けて寝てしまいました。

その日からサンと娘の毎日が始まり、休日はいつも庭を駆け回り追いかけてっこをしたり、長い散歩をして一緒に冬イチゴを食べたりして楽しんでいます。散歩で私がサルトリイバラを見つけて「山帰来(サンキライ)だ!」と言うと、「なんでサンの事嫌いって言うの?言わんといて!!」と怒ったり、仔犬に特有の顔つきに「なんでサンはいつも困った顔しとるんかなあ?」と真顔で言ったり、こちらが笑ってしまうことも多々あります。

先日、学校の女子の中で自分だけたまごっちを持ってないと娘が車で大泣きして帰り、コタツに潜り泣き続けていると、玄関につながれたサンは部屋で泣く娘の方に向かって必死で吠え続けました。寝る前に「サンがとても心配していたよ、うちで飼うのはさんちっちゃダメ?」と聞くと、娘は笑い出し、いろんなキャラを考えて物まねなどをして大笑いになりました。「さんちっちゃは美里のペット?何?」と尋ねると、即座に「サンにとってみいちゃんは親友!みいちゃんにとっては怪獣!!」という答えが返ってきました。娘とサンの絆が、この先育っていくことが楽しみです。私たちに愛しいサンとのご縁をくださった皆さんに、心から感謝申し上げます。



## お便りコーナー

## Kさん

10周年記念誌発行おめでとうございます。  
立派な記念誌を早速拝読しました。  
当研究センターの歴史的到達点を示していただきそのご努力に感謝申し上げます。  
本誌を読むことで当会の理念に立ち戻ることができます。  
私が、感銘しましたのは「保存・繁殖と研究活動は一对です」とのご指摘です。  
その関連で、小原秀雄氏の進化の視点、菊水教授のオシトキシン分泌の研究は、大変示唆的です。  
大変貴重な本誌は会員にとって座右の書と言えましょう。  
私自身、何もできませんが、二頭の姉妹の縄文柴犬との日々を大切に過ごしていきたいと存じます。



早々。

## 広島県 Oさん

(2017.7.18 生まれ 秋の栗紅王 ハク)  
紅葉も進み、冬の足音が聞こえ始めたこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか？  
ハクを飼って3年経ちました。  
年々、様子が変わってくるのを実感しております。  
今年になって(2歳半から3歳過ぎ)の感想を送ります。  
まずは、より？ようやく？飼い主を信頼してきたなと感じています。この子は、たいそう用心深く、自ら腹を見せる事は、ほとんどしません。  
私が、抱いて、ひっくり返して、全身チェックするのは、何ら問題なくさせてくれますが、基本誰にも腹を見せません。  
ハクに好意を持ってくださってるなあ…と思える人でも、「ハク！」と呼ばれても、知らん顔して、反応しません。何度会う人でも。家族と、他者との区別がくっきりしていて、家族(このグループ)の一員という認識がとても強い。  
ですが、家族の中でも、認識が異なり、私以外は、なめられてしまって、なかなか家族の指示通りにならず、考えて行動する子です。  
家(自分のテリトリーである小さな庭)が大好きで、こちらの都合で散歩時間が短縮されても、喜んで門の中に入

ってきます。散歩より、ご飯が好き。基本、外飼い。

月1~2回里山にある小さな畑に出かけます(車で下道2時間)が、行く日は、察知して、「忘れずにオイラも、連れて行って!」とソワソワして、鳴き始めます。

先日、その里山で散歩途中、何か小動物いるなと思ったと同時に、ハクがあつという間に、野ネズミを啜っていました。街育ちですが、さすが犬だなあ…と。

街の中で、他の犬とのすれ違いですが、基本自分からワンワンしません。他の犬が、ワンワンと寄って来ても、首をそらして、お前とは、やり合う気はないからと、避けようとします。

しつこくされると、ガウ!となりますが。

街の中でガウガウしてると、ただでさえ小さな洋犬が多い中、中型犬のハクは、大きな犬とみなされ、怖い犬と認識されて、散歩しづらくなる雰囲気があるので、なるべく他の犬の挑発にのらないよう心がけており、それがわかるから、こうなったのか、この子の性格なのか?といった感じです。

家族みんなで歩いていた時、お爺ちゃんが、高齢にて歩きが遅く、1番後ろで、遅れをとっていると、通常先頭を歩くのが好きなのに、後ろへ行き、「ちゃんとして来いよ!」と言わんばかりに、お爺ちゃんの足にタッチし、先頭に戻らず、そのすぐ側を歩くなど、家族想いの優しい心の持ち主です。

大人になったからか、胸にVサインの模様が出てきました。



下記写真(自分の大好きなテリトリーにて)



